

避難場所・集合場所

災害の種類	避難場所(第1候補)	避難場所(第2候補)	集合場所
洪水			
土砂災害			
地震			

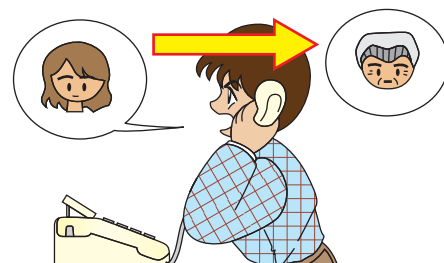
家族・知人の連絡先

なまえ	血液型	電話番号	メールアドレス	メモ

家族が離れ離れになった時の連絡先

被災地外の親類や友人に連絡の中継をしてもらおう

被災地の中同士では電話がつながりにくい状況でも、被災地から外に向けての連絡は比較的つながりやすい場合があります。遠くに住む親類や友人を連絡先としてあらかじめ決めておき、いざという時に中継してもらう方法も有効です。



家族と連絡をとる方法

災害用伝言ダイヤル「171」 安否確認や避難している場所を音声で伝言することができます



災害用伝言板

携帯電話から専用の伝言板サイトで、伝言を残すことができます

NTTドコモ
<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>



KDDI: au
<http://dengon.ezweb.ne.jp/>



ソフトバンク
<http://dengon.softbank.ne.jp/>



情報の収集には、次のような方法があります。(本紙3ページを確認してください)

■防災メールまもるくん ■町フェイスブック ■町LINE ■行政無線テレフォンサービス

保存版

見つけやすい場所に
置いてください

篠栗町

防災マップ



写真は「平成21年7月中国・九州北部豪雨」による町内の被害の様子です。
梅雨前線の活動により、九州地方北部から中国地方にかけて、非常に激しい雨が続き、
篠栗町では、1時間に100mm超、降り始めからの雨量が500mmを超す記録的な雨となり、甚大な被害が発生しました。



防災マップ(PDF)



ささぐりマップ(防災ページ)



篠栗町防災情報サイト

はじめに

防災マップの使い方……1

避難について考える

適切な避難行動……2
早めの情報収集が
防災の要……3
マイタイムラインを
つくろう……4
避難の流れと避難先……5
避難場所一覧……6

災害に応じた対応を
理解する

【風水害等編】

洪水について……7・8
土砂災害について……9・10
台風について……11

災害に応じた対応を
理解する

【火災編】

火災について……12

災害に応じた対応を
理解する

【地震編】

地震災害について……13・14

災害に備える

地域ぐるみで
災害に備えよう……15・16
状況に応じた
備えを考えよう……17

防災マップ編

防災マップの見方……18
地図ページ……19～34

篠栗町 令和3年

はじめに

篠栗町では、防災や災害に関する情報を提供することで、町民の皆さまが住んでいる地域の危険性を知り、災害に対する事前の備えや危機が迫った際の適切な行動を考え、実践できるようになっていただくことを目的に、この「篠栗町防災マップ」を作成しました。

ご家庭の見つけやすい場所に置いて、家族や地域での話し合いなどにご活用ください。

●防災マップの使い方

ステップ1

自宅の位置や避難場所を確認する

国道や県道の位置、学校や公共施設などの位置を参考に、自宅や避難先の位置を確認しましょう。
また、家族が滞在する場所（職場や学校など）の位置も確認しましょう。

※避難先は、町が指定する避難場所のほか、安全な場所にある親戚や知人の家なども考えられます。



ステップ2

自宅周辺などの災害リスクを確認する

防災マップでは、浸水や土砂災害などの危険が高い場所に着色や線で囲み表示をしています。着色等がない場所でも、周り比べて低い土地、水路や崖のそばなどは、危険となる場所もあります。併せて確認しましょう。



ステップ3

正確な情報の入手先を確認する

避難を判断するためには、正確な情報収集が大切です。「早めの情報収集が防災の要(3P)」を参考に、どこでどのような情報が入手できるかを、あらかじめ調べておきましょう。



ステップ4

避難先を決め避難経路を設定する

どのような状況で、どこに避難をするかを決定したら、避難経路を設定しましょう。大雨時は、橋や水路を避けるなど、想定される災害に対応した安全な経路を検討してください。



ステップ5

実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認する

避難経路を設定したら、実際に歩いてみましょう。避難経路上に新たな危険箇所があった場合には、経路や避難先を見直し、防災マップにも書き込みましょう。



ステップ6

非常持出品・備蓄品を準備する

「非常持出品・備蓄品(17P)」を参考にして、避難時に持ち出すものや大災害後に使用する保存食などを準備しておきましょう。



ステップ7

家族や地域で話し合おう

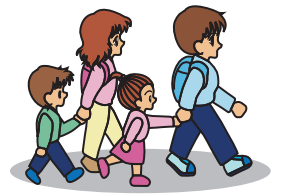
防災マップを使って、家族で話し合い、災害時の役割分担や災害時の連絡方法などを確認しましょう。また、地域での訓練や協議で活用し、地域のつながりや防災力向上にお役立てください。



【避難について考える】

適切な避難行動を知る

どんな状況で、どんな避難行動をするべきかを平常時から考えておきましょう。



●避難情報(警戒レベル)と皆さんがとるべき行動

警戒レベル	状況	とるべき行動	行動を促す情報	避難行動をとる際に参考とする防災気象情報等
5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1	・大雨特別警報(浸水・土砂災害) ・氾濫発生情報
篠栗町が発令 警戒レベル4までに必ず避難!				
4	災害のおそれが高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	・土砂災害警戒情報 ・危険度分布「非常に危険」 ・氾濫危険情報(多々良川)
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※2	高齢者等避難	・大雨警報(土砂災害) ・洪水警報 ・危険度分布「警戒」 ・氾濫警戒情報(多々良川)
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮 注意報(気象庁)	・大雨注意報 ・洪水注意報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)	早期注意情報(警報級の可能性)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、【警戒レベル5】は、必ず発令されるものではありません。

※2 【警戒レベル3】は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。また、警戒レベル3を発令せずに警戒レベル4を発令することもあります。

❗ 避難とは、難を避けること、つまり安全を確保することです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

❗ 避難時の状況によっては、指定された避難場所等へ向かうことにこだわらず、
近くの頑丈な建物の上層階に避難するなど、その時点の最善な安全確保行動をとることが重要です。

❗ 豪雨時の屋外避難は危険です。車の移動も控えましょう。

❗ 警戒レベルの発令情報は、防災無線(テレホンサービス)、防災メール、町ホームページ、町LINE、
テレビ(データ放送)などで確認できます(詳細は3P)。

❗ 警戒レベル4以上を発令した場合は、防災行政無線で以下のような通知を放送します。
『サイレン30秒(ウー)』『アナウンス(地区に警戒レベル4を発令します)』『サイレン30秒(ウー)』

【避難について考える】

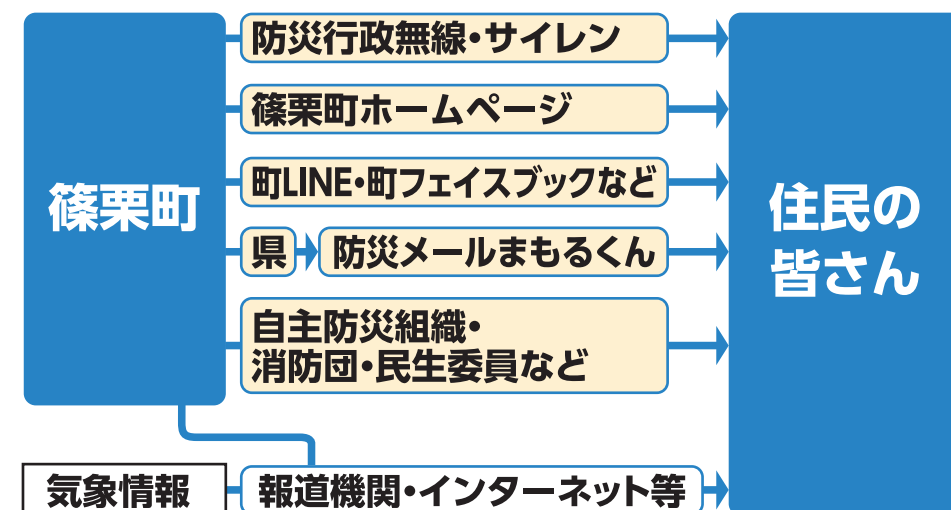
早めの情報収集が防災の要

安全な避難を行うためには、正確な情報が必要です。
町やテレビ、ラジオ、インターネットなどで正確な情報を収集しましょう。



情報の伝達経路

避難に関する情報については、下記のように多数の方法で住民の皆さんに伝達します。

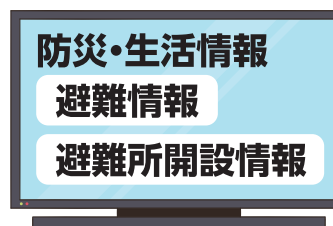


情報を入手しよう

テレビによる情報の入手方法 (NHKデータ放送)

町からの情報は、県の防災システムを利用して、テレビのデータ放送 (NHK総合) にも配信し、すぐに掲載されます。
また、町は報道各社 (民放テレビ・ラジオ) への情報提供も積極的に行っています。

- 1 テレビ (NHK総合) を表示し、リモコンの「**d (データ放送)** ボタン」を押します。
 - 2 リモコンの矢印で「**防災・生活情報**」に合わせ、「決定ボタン」を押します。
 - 3 篠栗町から情報が発信されていれば、「**避難情報 (警戒レベル3・4・5)**」、「**避難所開設情報**」の表示が赤くなるので、選択するとそれぞれの情報が表示されます。
- ※事前に自宅のテレビの地域設定を、篠栗町にしておく必要があります。



インターネットによる情報の入手先

【気象庁】(篠栗町の気象情報等ページ) 気象庁 篠栗町 検索
気象庁が発表する気象情報や警報などが閲覧できます。

【気象庁 (高解像度ナウキャスト)】 気象庁 ナウキャスト 検索
雨雲の動きや今後の降雨、洪水や土砂災害の危険度分布を表示します。

【福岡県総合防災情報】 福岡県 防災情報 検索
県内の防災気象情報、レーダ雨量情報、河川情報、土砂災害危険度情報、道路情報が閲覧できます。

【篠栗町ホームページ】 篠栗町 検索
避難情報 (警戒レベル) や避難場所の開設情報など町の防災情報を配信します。

気象庁
(篠栗町の情報)



気象庁
(高解像度ナウキャスト)



福岡県
総合防災情報



篠栗町
ホームページ



防災行政無線が聞こえない時は

防災行政無線は、情報伝達手段の一つですが、家の立地や状況により「聞こえにくい」場合があります。聞こえにくい方は、下記サービスをご活用ください。

- ・防災行政無線テレホンサービス ☎ 0120-931-223
- ・固定電話 (FAX) への自動配信サービス
登録希望の方は、役場総務課までお問い合わせください。
※インターネットが使用できない方優先

事前に登録しておこう

防災メールまもるくん

福岡県が運営する防災メールです。町からもこのシステムを利用して、情報を発信していますので、メール等が使えるスマートフォンや携帯電話をお持ちの方は、ぜひ登録をお願いします。

<配信内容>

- ・気象情報 (警報や特別警報) や災害情報 (地震や津波、台風など)
 - ・避難に関する情報 (警戒レベル (避難勧告) や開設している避難所の情報)
 - ・災害時の安否情報通知
 - ・地域の安全に関する情報
 - ・福岡県避難支援マップ
- ※配信する地域や情報の絞り込みも可能です。



篠栗町公式LINE

篠栗町では、公式LINEを開設し、防災情報の他、町からのお知らせなどの発信を行っています。
登録はこちらから。

LINE ▶



【避難について考える】

マイタイムラインをつくろう

台風の接近、大雨が予想されているときに、いつ、誰が、どこへ避難するかをあらかじめ決めておく「マイタイムライン」をつくり、いざというときに慌てず避難をしましょう。

風水害時の行動 (タイムライン)

これは、気象情報や多々良川の水位または土砂災害に関する情報を例に「いつ・だれが・どう行動する」という流れを簡易的に整理したものです。
あらかじめ自分や家族の行動を考えてマイタイムラインを作成しましょう。



記入用マイタイムラインは、町のホームページからダウンロードできます。 篠栗町 マイタイムライン 検索

- Q あなたが居る場所は安全ですか? → A 安全な場所であれば、避難場所に行く必要はありません。
- Q 家族の中に、避難に時間を要する方がいますか? → A レベル3以前に避難
※雨の降り方によっては、急にレベル4が発表されることがあります。強い雨を感じたらレベルにかかわらず避難を考えましょう。
- Q 指定緊急避難場所以外に避難してもいいですか? → A 安全な場所に住民親せきや知人宅への避難も問題ありません。
安全の確保ができる場所をあらかじめ決めておきましょう。

【避難について考える】

避難の流れと避難先

災害を避けるための『緊急避難』と被災後の『避難生活』



状況が落ち着いたら自宅を確認

被災後の『避難生活』

生活が
できる

自宅で生活
(非常備蓄等で生活開始)



生活が
できない

指定避難所 (各公民館)
※指定緊急避難場所も指定避難所を兼ねます

※一般の避難所では生活が困難な方、特別な配慮が必要な方のみ利用可

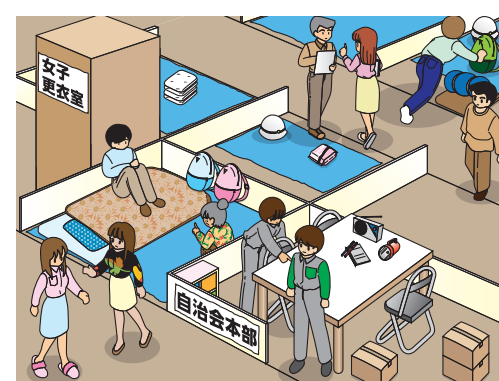
福祉避難所 (オアシス篠栗など)

★避難所生活では

避難所の運営は町や地域の方々によって行われます。避難をしている人も自宅が無事だった人も、ボランティアとして積極的に運営に関わってみましょう。

〈避難所生活の心得〉

- ・周りの方への思いやり、周りの方からの思いやりを大切にしましょう。
- ・困った人がいたら、積極的に声をかけていきましょう。
- ・避難所で決められたルールや役割を守りましょう。



【避難について考える】

避難場所一覧



指定緊急避難場所(第1次開設)

- ・気象警報(大雨、洪水)が発令された場合には、自主避難場所として開設します。
- ・町が警戒レベル3(高齢者等避難開始)以上を発令した場合は、一番初めに受け入れ態勢を整えます。

名称	住所	掲載ページ
クリエイト篠栗	中央一丁目9-1	20・21 24・25

指定緊急避難場所(順次開設)

- ・町が警戒レベル3(高齢者等避難開始)以上を発令した場合に順次開設します。
- ・町立の3つの体育館の受け入れ態勢が先に整います。
- ・指定緊急避難場所の開設状況は、町ホームページや防災メール、テレビのデータ放送(NHK総合)などで提供します。

名称	住所	掲載ページ
合併50周年記念体育館	中央四丁目18-16	25
町民体育館	尾仲681-1	24
社会体育館	津波黒498	20

停止

名称	住所	掲載ページ
篠栗小学校	篠栗5026	25
萩尾分校	萩尾640-1	28
勢門小学校	尾仲671	24
北勢門小学校	津波黒497	20
篠栗中学校	中央三丁目3-1	25
篠栗北中学校	津波黒498	20

指定避難所(各公民館)

- ・大災害などの後、家に帰ることができないときに避難生活を送る施設です。
- ・行政区(自主防災組織)によっては、共助活動の一環として、災害発生の際の緊急避難場所として、開設される施設もあります。(詳細は各区にご確認ください)
- ・避難所の運営は、避難者(地域住民)が協力して行うこととなります。定められたルールを守ること、助け合いの精神で協力し合うことが円滑な運営に大切となります。

福祉避難所

- ・高齢者や障がい者、乳幼児がいる方などで、通常の避難所での生活に支障がある方専用の避難所となります。
- ・福祉避難者への受け入れには準備が必要なため、一旦通常の避難所などで待機をいただく場合があります。
- ・福祉避難所への避難を希望する場合は、災害対策本部(篠栗町役場)または各避難所へご相談ください。(状況によっては受け入れできない場合もあります)

開設順	名称	住所	掲載ページ
1	オアシス篠栗	中央一丁目9-2	20・21
2	社会教育総合センター	金出3350-2	22・26・29

避難地

- ・被災リスクの低い公園施設や広場など、町内の23か所を指定しています。
- ・災害(特に地震や火災時)などが発生した場合の緊急避難を行う場所として設定しています。
- ・避難地の場所の詳細は、各マップページを参照してください。

【災害に応じた対応を理解する】

【風水害等編】洪水について

篠栗町では、町の東西に流れる2級河川の多々良川があり、大雨の際は多々良川が氾濫する危険に加え、流れ込む支流などが溢れ、内水氾濫が発生する可能性もあります。



●避難情報の発令基準

篠栗町を流れる多々良川の水位計は上町区の県道92号に架かる「金川橋」に設置されています。「金川橋」の水位を基に警戒レベルの発令などを行っています。

金川橋水位観測所	警戒水位	警戒レベル	内容
氾濫危険水位 3.72m	氾濫発生	レベル5 相当	氾濫への警戒を求める段階
避難判断水位 3.09m	氾濫危険水位	レベル4 相当	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難などの氾濫発生に対する対応を求める段階
氾濫注意水位 2.57m	避難判断水位	レベル3 相当	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階
水防団待機水位 1.47m	氾濫注意水位	氾濫注意情報	氾濫の発生に対する注意を求める段階

洪水予報

金川橋の水位情報や雨量、監視カメラの様子は、「福岡県 総合防災情報 河川情報」のページで確認できます。

福岡県 総合防災情報 河川情報 検索



●川の氾濫(内水氾濫・外水氾濫)

内水氾濫が発生した際は、車や徒歩での避難は危険です。外水氾濫(多々良川)による浸水深は、マップページに色分けして掲載していますので、想定浸水深が深い地域では、早めの立ち退き避難を検討してください。

内水氾濫

雨の量が下水道や道路側溝などの排水施設の能力を超えたり、河川の水位が高くなったとき、雨水を排水できずに、マンホールや側溝から水があふれ出し、浸水することがあります。

外水氾濫

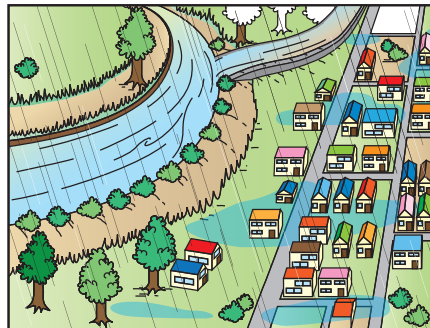
大雨によって河川の水位が高くなると、堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊し、家屋が倒壊する危険があります。

内水氾濫の発生

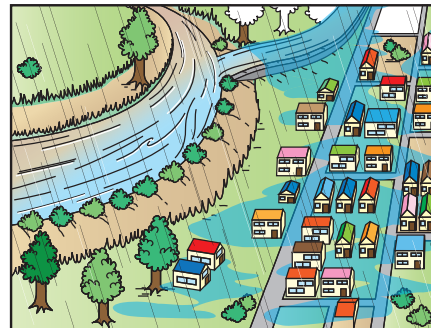
外水氾濫(洪水)の発生



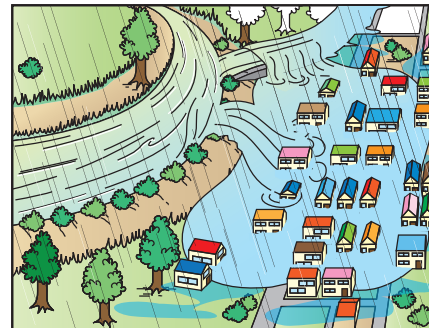
非常に激しい雨が降ると...



雨水が下水道や道路側溝などで排水できずに溜まります。



さらに雨が降り続けると、大きな河川の水位が上昇し、中小河川の排水が難しくなりあふれ出す恐れがあります。



堤防が決壊すると、大きな被害が発生します。

●大雨(洪水)時の避難行動を考えよう

あなたの自宅はどこにありますか？

浸水想定区域にある。

いいえ

とるべき避難行動

■室内待機(避難準備)

テレビなどで最新の情報を入手し、状況に注意しましょう。
※内水による浸水や土砂災害などの危険がある場合は避難を検討。



はい

家屋倒壊等氾濫想定区域にある。

いいえ

はい

想定される浸水の深さが自宅の最上階の床の高さを上回る。

※木造家屋でのおおよその目安

3m以上で2階の床まで浸水
5m以上で2階の天井まで浸水

いいえ

■立ち退き避難(水平避難)

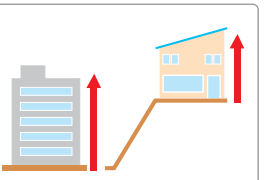
災害が発生する前に安全な場所に避難しましょう。
※避難先等については、5P・6Pをご参照ください。



■屋内安全確保(垂直避難)

浸水のおそれがない上層階など屋内の安全な場所に避難しましょう。

※避難が遅れるなどで、立ち退き避難が困難な場合は、近くの高い建物や自宅の一番高い場所に垂直避難しましょう。

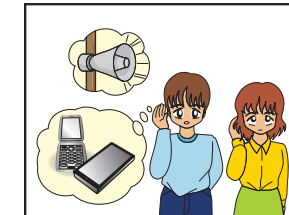


●避難のポイント

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。自宅や自宅周辺の状況、そのときの降雨や浸水状況などに応じて、危険が迫る前に早めに避難しましょう。

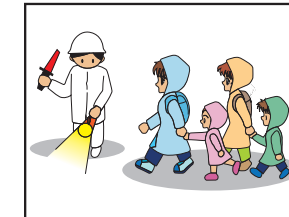
●積極的な情報収集

台風や大雨のおそれがある時は、テレビやラジオ、防災メール、インターネット等で情報を収集しましょう。
危険が迫った時は、町が警戒レベルとともに、避難を呼びかけます。



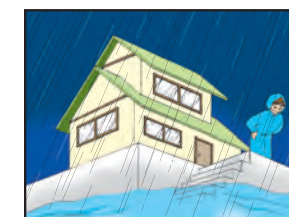
●避難情報等に注意し、早めの避難を

避難するときは、非常持出袋を持ち、動きやすい服装、スニーカー等、脱げない靴で2人以上の行動を心掛けましょう。
避難の際には、川や橋には近づかない。また、側溝やマンホールに注意しましょう。



●屋外に出るのが危険な場合は「屋内待機」

周辺が浸水し、屋外に出るのが危険な場合は、近くの高い建物や自宅の2階以上に避難し、屋内で安全を確保しましょう。



●家屋倒壊等氾濫想定区域は早期立ち退き避難が必要

家屋が倒壊するような氾濫流や河岸侵食のおそれがあるときは、屋内待機は危険です。早めに避難場所などの安全な場所に避難しましょう。

●お年寄りや障がいのある方の避難の手助けを

●情報が届きにくい方へ危険を知らせる

目や耳が不自由で情報の取りにくい方、インターネットなどの情報がとれない方は、ご近所や日頃の支援者などに様子をたずねてみましょう。



●障がいのある方や高齢の方

障がいのある方や高齢者の中には、移動に時間がかかる方もいます。
早めに、自らすずんで避難しましょう。
避難に手助けが必要な方、避難途中で歩けなくなった時などは、早めに救援を頼みましょう。



【災害に応じた対応を理解する】

【風水害等編】土砂災害について

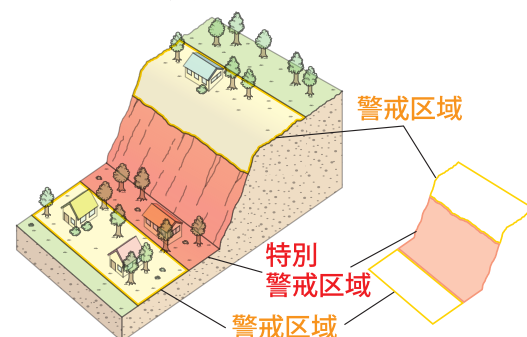
篠栗町は約7割が山林で、土砂災害警戒区域等が多くあります。
危険性を知り、避難のタイミングや避難先を考えましょう。



●土砂災害とは

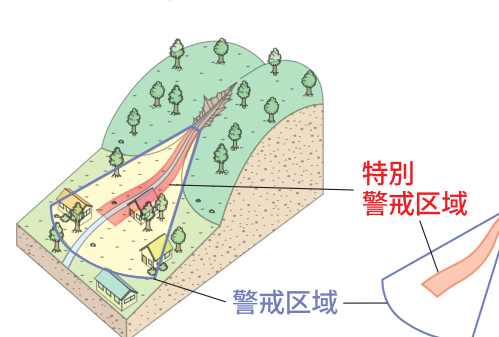
土砂災害は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)、土石流、地すべりの3種類に分類されており、それぞれで危険な範囲や前兆が違います。

[がけ崩れ]



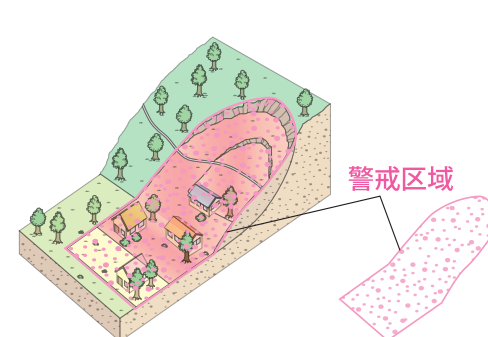
- 急な斜面が雨水の浸透や地震などの影響によって、突然崩れ落ちる現象です。
- 突然発生し、かつ崩れるスピードが速いため、逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高いです。
- 崩れた土砂は、斜面の高さの2～3倍も離れた距離まで届くことがあります。

[土石流]



- 山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などの影響によって、一気に下流へと押し流される現象で、一瞬のうちに人家などを壊滅させてしまいます。
- 規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で、破壊力がとても大きいです。

[地すべり]



- 比較的緩やかな斜面が地下水などの影響によって、斜面下方へ移動する現象です。
- 斜面の表面部分が崩れ落ちる表層崩壊と、深層の地盤までもが崩れ落ちる深層崩壊があります。
- 大雨や融雪時に発生しやすく、一度に広範囲が動くため、被害が大きくなります。

がけ崩れの前兆現象

- ◇ひび割れが大きくなる
- ◇木が揺れる
- ◇小石がばらばら落ちる
- ◇がけの上にひび割れができる
- ◇根の切れる音がする
- ◇木が傾いたり倒れる
- ◇わき水がとまる(あるいは、噴き出す)

土石流の前兆現象

- ◇異常な山鳴り、地鳴り
- ◇山の木がザワザワ騒ぐ
- ◇木の裂ける音
- ◇異常なおい
- ◇川が急ににごったり、流木が混ざり始める
- ◇雨が降り続けているのに、川の水が減る

地すべりの前兆現象

- ◇木の騒ぐ音、裂ける音がする
- ◇流水や池などがにごる
- ◇ひび割れ、段差ができる
- ◇家が傾き、ふすまなどの開閉が困難
- ◇水が噴き出す
- ◇道路などにひび割れができる
- ◇電柱が傾く

雨が降り続けている時に、上記のようなことがあったら土砂災害がいつ起きてもおかしくありませんので、すぐに避難するようにしましょう。

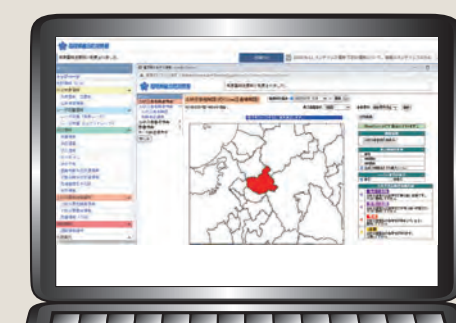
●自宅の土砂災害発生の危険度を知る



まずは、マップページで自宅を確認し、土砂災害警戒区域等に該当するかご確認ください。警戒区域等に該当しなくても、自宅の近くに山やがけがあったり、自宅が造成地に立っていたりする場合にも土砂災害への警戒が必要です。該当する場合は、どのような状況になったら、どこに避難するかを事前に考えておく必要があります。

降雨時の土砂災害の危険度(発生のおそれ)は、「福岡県 総合防災情報 土砂災害危険度情報」のページで確認できます。

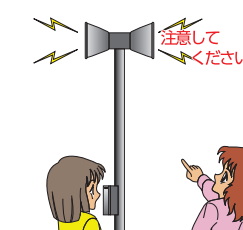
福岡県 総合防災情報 土砂災害 検索



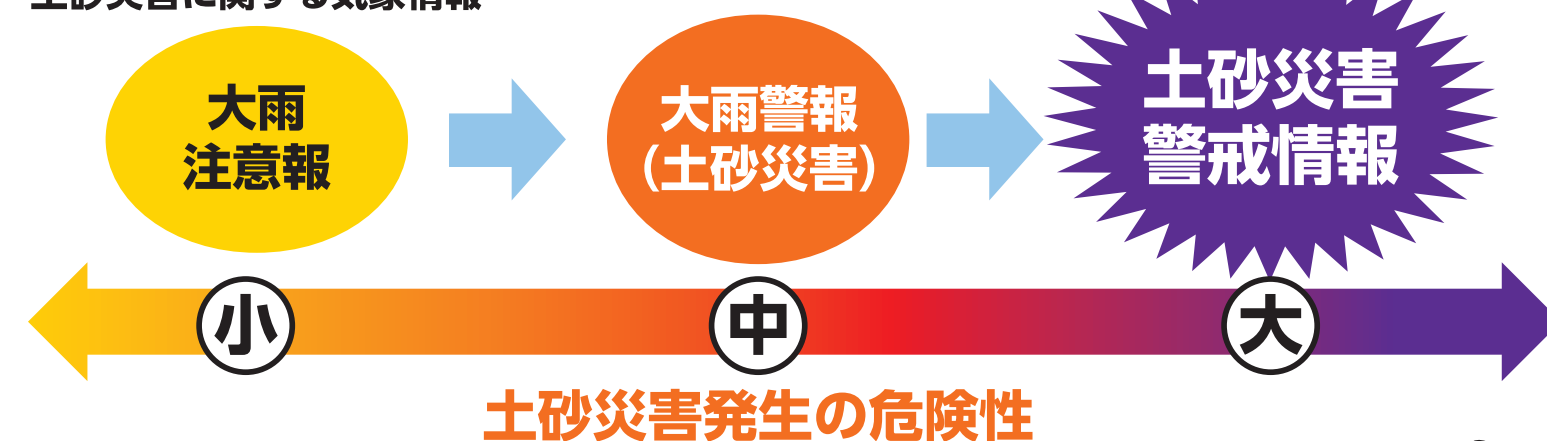
●土砂災害警戒情報に注意

土砂災害警戒情報とは

「土砂災害警戒情報」とは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、県と気象庁が共同で発表する防災情報です。町が警戒レベルを発令する際の指標の1つであり、住民の皆さんが自主避難を判断するための重要な情報です。



土砂災害に関する気象情報



土砂災害警戒情報が発表されたら

「土砂災害警戒情報」が発表された時は、「いつ災害が起きてもおかしくない」という非常に危険な状態です。土砂災害の危険がある場所にいる方は、安全な場所への避難を判断してください。



●土砂災害の危険がある場所にいる方は...

①安全な区域にある建物内への立ち退き避難を基本とする。

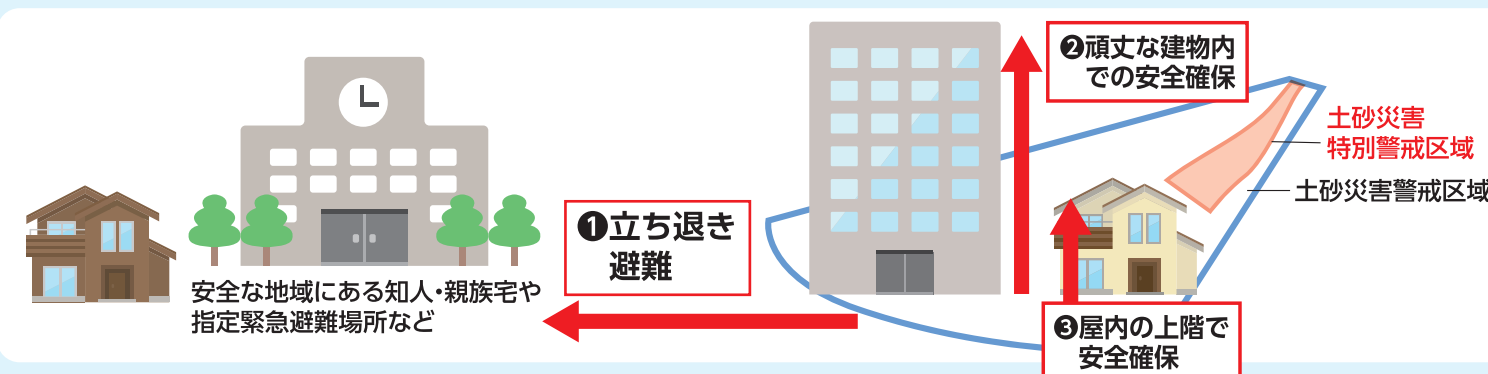
(警戒区域外にある知人・親戚宅や指定緊急避難場所など)

②雨などの状況により、安全な区域までの移動が危険な場合は、近隣の頑丈な建物内の上階で安全を確保する。

③外が危険な場合は、屋内の上階(山の反対側)で安全を確保する。



警戒区域内での避難は、災害の発生に伴い孤立してしまう可能性があるため、必要な物資や連絡体制などをあらかじめ整えておきましょう。



【災害に応じた対応を理解する】

【風水害等編】台風について

台風が日本に近づく場合は、気象庁から進路や風速、被害の想定などが事前に発信されます。そのため、早い段階で災害に備えることが可能な災害です。早めの情報収集で事前にしっかりと対策を立てましょう。

●台風とは

台風は、北西太平洋または南シナ海にあり、かつ低気圧域内の最大風速が一定以上のものをいいます。台風は海面が暖かい南の海で発達し、上空の風等によって移動します。

■台風の大きさと強さ

気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。

「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径です。「強さ」は最大風速で区分しています。

さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

台風の強さ

階級	最大風速
強い	33m/s (64 ノット) 以上～ 44m/s (85 ノット) 未満
非常に強い	44m/s (85 ノット) 以上～ 54m/s (105 ノット) 未満
猛烈な	54m/s (105 ノット) 以上

出典：気象庁

■風の強さと吹き方

平均風速 (m/s) おおよその時速	風の強さ (予報用語)	人への影響	走行中の車	台風風 吹く風
10～15 ～約50km/h	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	 道路の吹き流しの角度が水平 になり、高速運転中では 横風に流される感覚を受ける。	
15～20 ～約70km/h	強い風	風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。高所での 作業はきわめて危険。	 高速運転中では、横風に流 される感覚が大きくなる。	
20～25 ～約90km/h	非常に強い風	何かにつかまっていけないと 立ってられない。飛来物 によって負傷するおそれがある。	 通常で速度で運転するのが 困難になる。	
25～30 ～約110km/h		屋外での行動は極めて危険	走行中のトラックが横転す る。	
30～35 ～約125km/h	猛烈な風			暴風域
35～40 ～約140km/h				
40～ 約140km/h～				

出典：雨と風(気象庁リーフレット) 風速はまわりの地形や建物などに影響されるので、場所によって変わります。上表の状況は、おおよその目安です。

気象庁は、台風やこれから台風が発達すると予想される熱帯低気圧について、5日先までの予想進路や強度を台風情報として発表します。台風が接近しているときは、気象庁の情報を確認し、避難のタイミングを検討しましょう。

●台風で備えて家の点検をしよう

天候が穏やかなうちに災害に備えて準備をしておきましょう。

屋根

瓦のひび・ずれなどはないか。トタンのめくれ・はがれはないか。

雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていないか。継ぎ目のはずれや塗装のはがれ、腐りはないか。雨戸にガタツキやゆるみはないか。

窓ガラス

ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。外側から板などでふさぐ。

ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の危険性が高いものは室内へ。

外壁

外壁に亀裂はないか。板壁の場合、腐りや浮きはしないか。プロパンガスのボンベは固定されているか。

ブロック塀

ひび割れや破損箇所はないか。

側溝

目詰まりしていないか。雨水が速やかに排出されるか。

【災害に応じた対応を理解する】

【火災編】火災について

火事を見つけたら、はじめの対応が重要です。まず周囲の人に火事を知らせ、119番通報します。その後に「消火」にかかりますが、初期消火で消し止められないときは、すぐに避難しましょう。



●火災発生時の行動3原則

1.知らせる!

- 「火事だー!」と大声で叫んで隣近所に援助を求める。
- どんな小さな火災でも必ず119番通報する。



2.初期消火

- 出火直後なら初期消火が可能。落ち着いて、素早く対応する。
- 消火器や水だけでなく、座布団で火をたたき、ぬらしたシートで火を覆うなど、手近なものを利用する。

3.避難

- 火が背の高さを超えたら初期消火は難しい。無理をせず避難する。
- 避難するときは、部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断する。

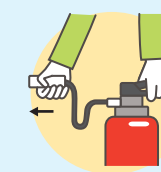


●消火器の使い方

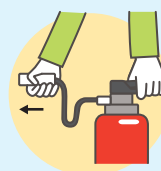
1 安全ピンを上にくく引き抜く



2 ホースのノズルを持ち、火元に向ける



3 レバーを強く握って噴射する



●住宅用火災警報器

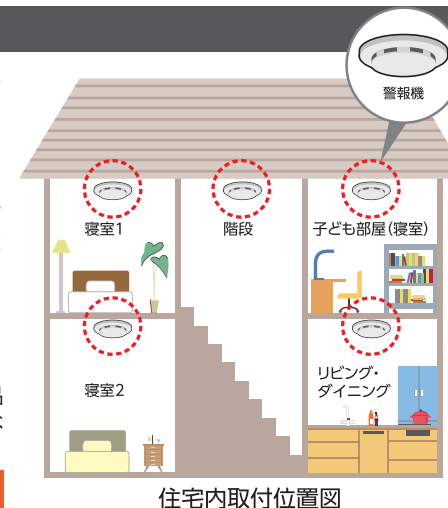
火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう

火災警報器の設置場所

- 寝室**…すべての寝室(子供部屋や高齢者の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段**…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所**…台所への設置もおすすめです。

住宅用火災警報器は古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感じなくなることがあるため、

10年たったら交換をおすすめします



住宅内取付位置図

篠栗町消防団が活躍中

消防団は、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行います。「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、篠栗町では約260人の団員が活動しています。



○平常時の活動

- ・消火訓練、防災訓練
火災を想定した放水訓練や災害時の対応研修などを定期的実施
- ・防火、防災啓発や研修
防火の啓発活動をはじめ、地域や学校での応急処置や防災研修を実施
- ・水利や器具の点検
非常時に利用できるよう地域内の施設を点検します。

○災害時の活動

- ・消火活動
火災時には、消防団が消火活動及び後方支援活動を行います。
- ・捜索、救助活動
大規模災害発生時には、捜索・救助活動や避難誘導などを実施

◆消防団に入団を希望する方は

対象 18歳～45歳で、町内在住または、町内勤務の男女

※詳細は以下まで、気軽に問い合わせください。

- ①地域の消防団
- ②役場総務課 消防防災係(092-947-1113)まで

【災害に応じた対応を理解する】

【地震編】地震災害について

いつ地震が起きても困らないよう、地震による被害を知り、日頃から地震への備えをしておきましょう。



●篠栗町に被害を及ぼす地震

福岡県内で存在が確認されている主な活断層は7つあります。平成17年(2005年)には、このうちの一つである警固断層帯(北西部)を震源とした福岡県西方沖地震が発生し、大きな被害が発生しました。篠栗町近くには「宇美断層」及び「西山断層帯」が確認されています。

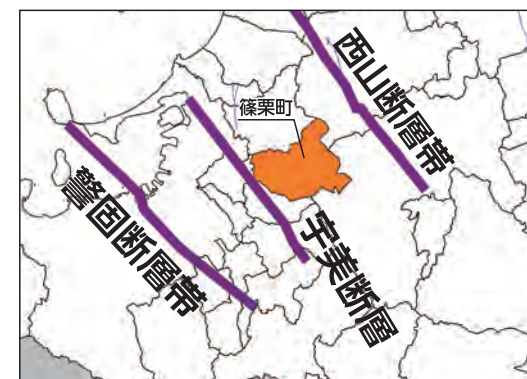
また、近年では活断層が確認されていない地域でも、未知の断層の活動による地震が発生し、大きな被害が発生しています。

■篠栗町周辺の活断層

活断層名	西山断層帯 西山区間	宇美断層	警固断層帯 南東部
想定される地震の規模 ^{※1} (マグニチュード)	7.6程度	7.1程度	7.2程度
篠栗町で想定される 最大震度 ^{※2}	6弱	6弱	6弱
30年以内に地震が 発生する確率 ^{※1}	不明	ほぼ0%	0.3%~6%

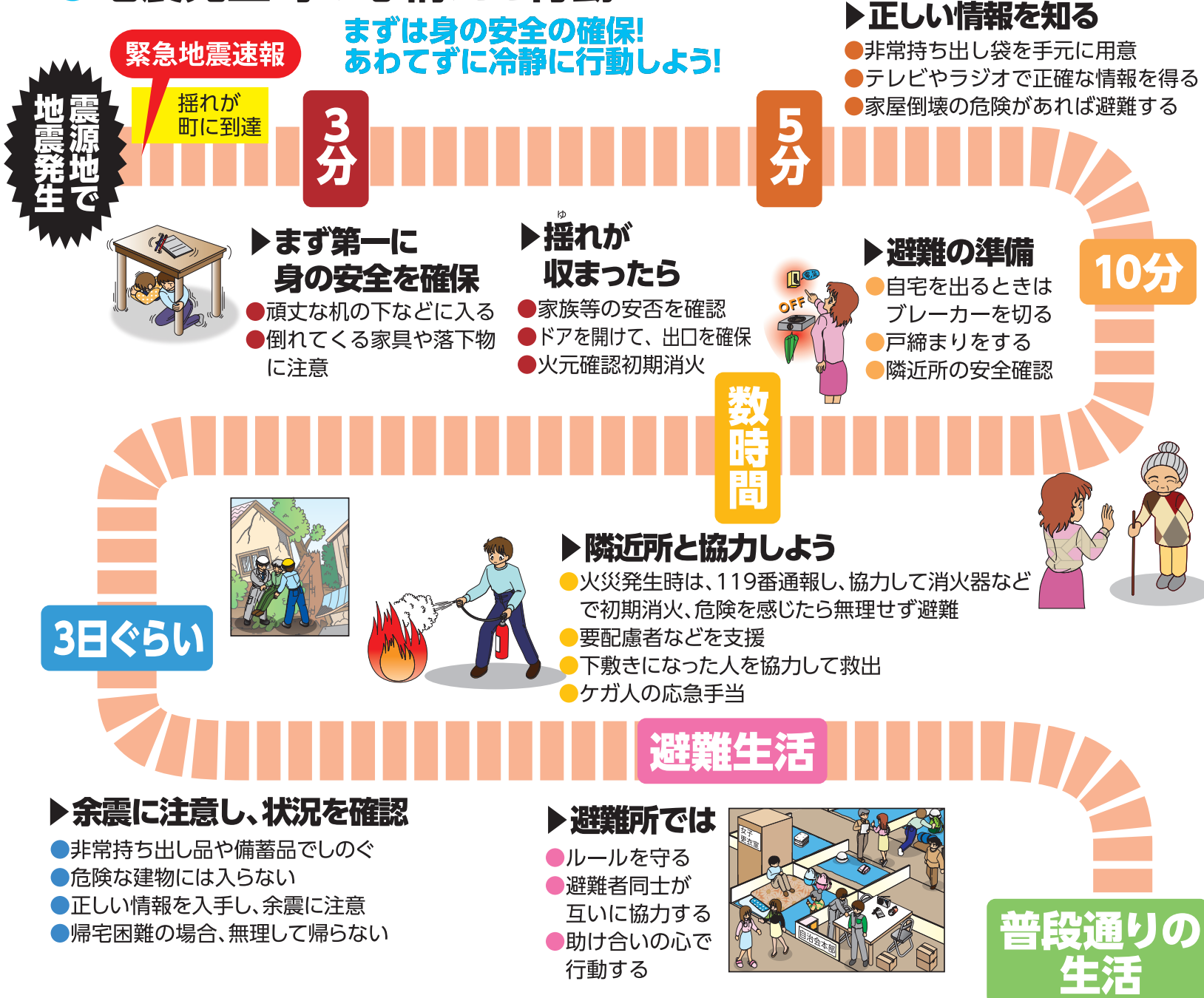
※1 地震調査研究推進本部 主要活断層の長期評価(算定基準日 令和2年(2020年)1月1日)

※2 地震に関する防災アセスメント調査(福岡県 平成24年3月)



※地震調査研究推進本部資料をもとに作成

●地震発生時の心構えと行動



●地震発生時の安全のポイント

路上では

- 手荷物などで頭を守り、広場などへ移動する。
- 繁華街ではガラスや看板などの落下物に注意する。
- 建物や塀、電柱などから離れる。自動販売機の転倒にも注意する。



斜面やがけの近くでは

- 土砂災害の危険があるため、すぐに斜面などから離れる。
- 余震や大雨の影響で土砂災害の危険性が高まることもあるので注意する。



エレベーターの中では

- 最近のエレベーターは地震の揺れを感知すると自動的に最寄りの階に停止するのでそこで降りる。自動で停止しない場合は、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出る。
- 万が一、閉じ込められた場合は、非常ボタンやインターホンで外部と連絡をとり、救出を待つ。天井などから無理に脱出するのは危険。



地震発生時は、避難者や救急車などの緊急車両の通行を優先的に確保する必要があります。避難者や緊急車両が円滑に通行できるよう皆さんのご協力をお願いします。



★緊急地震速報を聞いたら、まずは身を守ろう!

地震が起こると「カタカタ」という揺れの後に、「ゆさゆさ」という大きな揺れがきます。この地震の波の特徴を使い、気象庁はテレビ・ラジオや携帯電話を通じて、緊急地震速報を発表しています。

- ・震度5以上が予想されるときに発表されます。
- ・速報発表から大きな揺れが来るまでは、数秒から数十秒です。
- ・震源に近い地域では、緊急地震速報が出る前に強い揺れが来る場合があります。

速報どおりの揺れが来ないこともありますが、数秒間で大きな家具から離れるなど身を守る行動を取ってください。



●我が家とその周辺の点検と対策

屋根

屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

耐震診断・改修

専門家にチェックしてもらう。

プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

感震ブレーカー

電気を遮断してくれる。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

ブロック塀

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

窓ガラス

飛散防止フィルムを貼ったり、厚手のカーテンで割れた窓ガラスの飛散防止を行う。

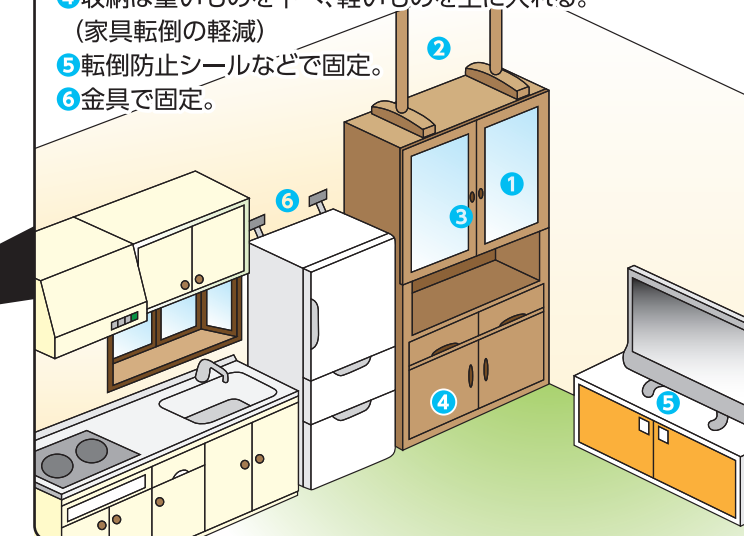


家具の配置のポイント

大型の家具や家電は、転倒防止器具で固定する。(固定方法は、固定器具の説明書をよく確認する。)

寝室には、できるだけ家具を置かない

- ① ガラスには飛散防止のフィルムを貼る。
- ② つっかえ棒で固定。
- ③ 食器や本などは、中のものが飛び出さないようロックをつける。
- ④ 収納は重いものを下へ、軽いものを上に入れる。(家具転倒の軽減)
- ⑤ 転倒防止シールなどで固定。
- ⑥ 金具で固定。



【災害に備える】

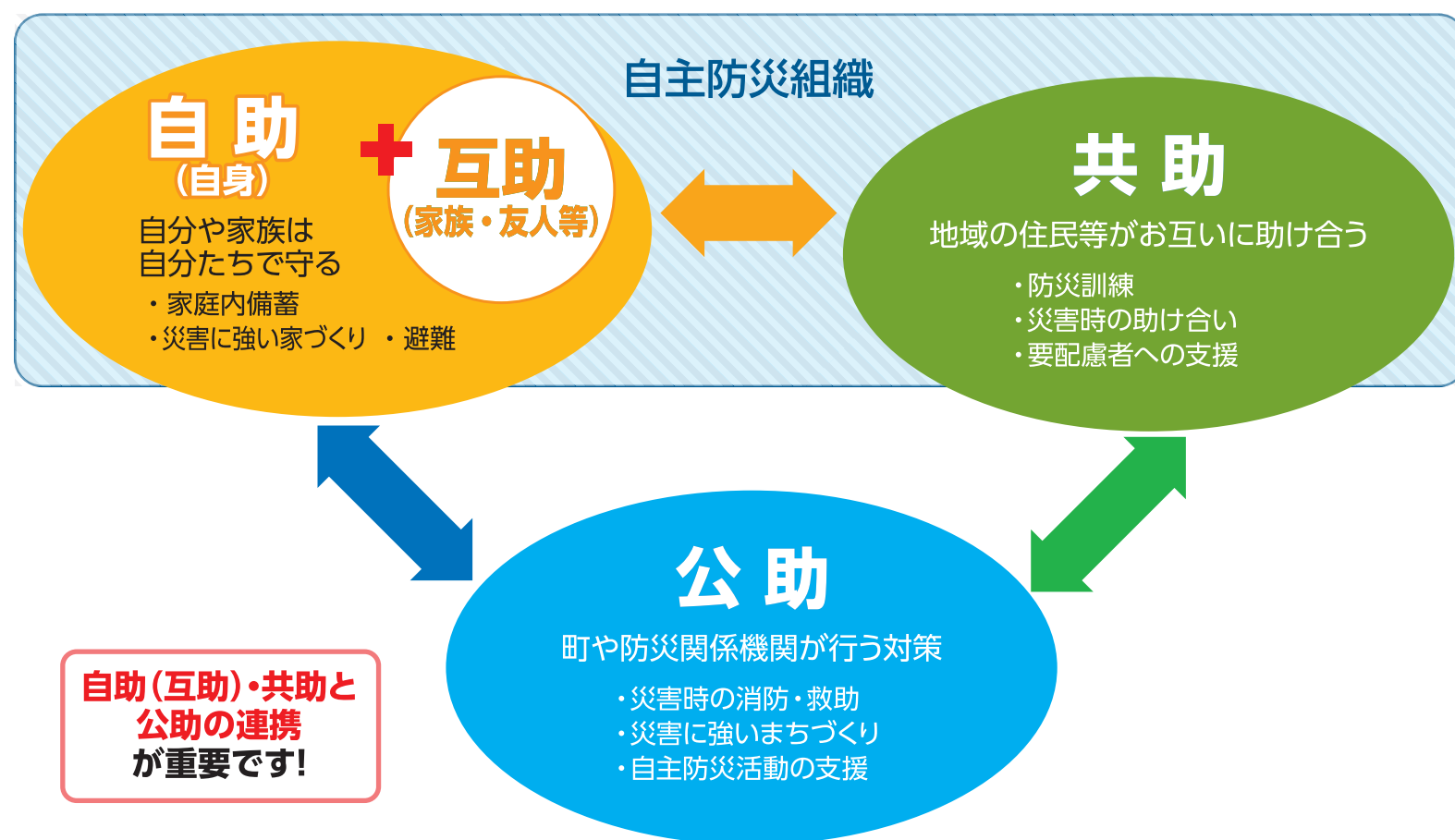
地域ぐるみで災害に備えよう

地域に暮らす私たちは、お互いに助けたり、助けられたりする関係にあります。
近所や地域の方とのつながりを育むことが、自身や家族の命を守ることに繋がります。



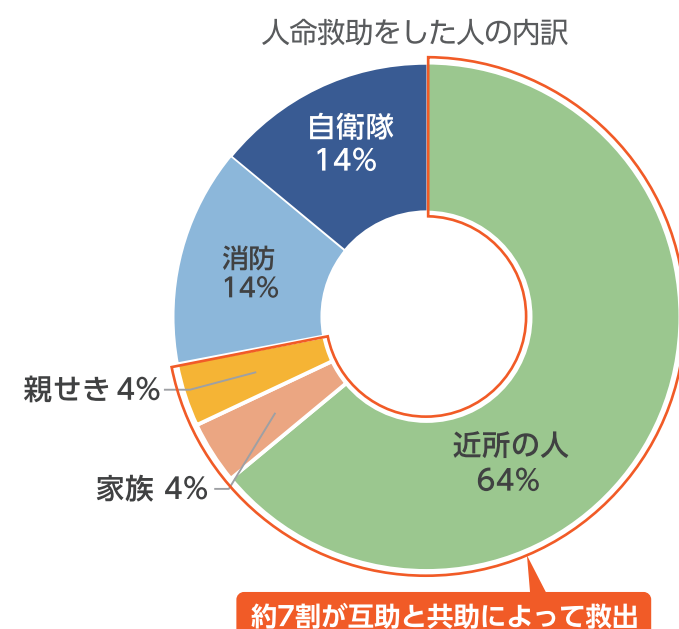
●地域みんなで助け合おう

大規模な災害時には、行政の対応能力（公助）を超える被害が予想されます。そのため、全ての住民が自分の身を守ること（自助）に全力を尽くし、自分がケガをせずに生き残ることを最優先に行うことが基本です。しかし、高齢者など自助が難しい方には、家族や友人、隣人たちと助け合うこと（互助）が大切です。いざというときに助け合うためには、日ごろからあいさつを交わし合い、顔見知りになることから始めてみましょう。



★互助や共助が命を救う

自主防災組織は、地域住民が自発的に防災活動を行う組織です。阪神淡路大震災の際、がれきの下から救出された人の6割以上が「近所の人によって助け出された」という調査結果もあります。「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで自主防災組織に積極的に参加し、災害に強いまちづくりを目指しましょう。



『1995年兵庫県南部地震による人的被害(その5) 神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査』宮野道雄(大阪市大)他1996年日本建築学会大会学術講演梗概集

●地域での防災の取り組み

まずは、できることから始めてみましょう

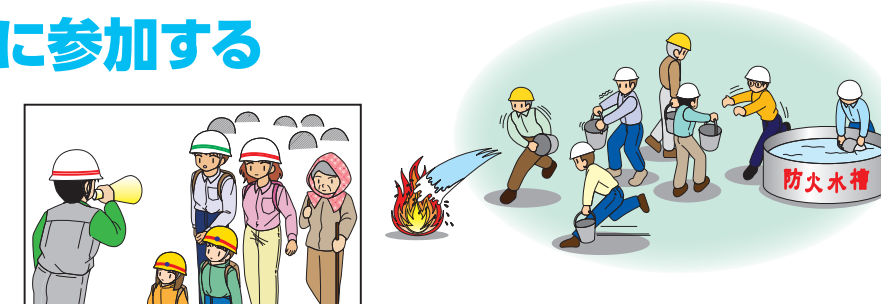
①自主防災組織に参加する

大規模災害時に頼りになるのが、地域の住民で運営する自主防災組織です。篠栗町では、全行政区に自主防災組織がありますので、積極的な参加をお願いします。



②防災訓練や防災研修に参加する

町や地域、消防団が主催する防災訓練や避難所運営訓練などに参加することで、地域防災力に加え、自身の防災力も向上します。



③ご近所ネットワークに参加する

各行政区の組合や子ども会育成会などの活動に参加することは、地域のつながりをつくる一番の近道です。また、近所の人との挨拶や会話を重ねることや、広報紙などに掲載される地域のイベントや公民館などで開催される各種講座に参加することも地域の輪に入る方法のひとつです。
※組合などに加入したい方は、各行政区の区長が役場総務課にお問い合わせください。

④いざという時の援助を頼んでおく

高齢者世帯などで、自分たちだけでは速やかな情報収集や避難が難しい場合もあります。心配な場合は、事前に親戚や近所の方などに、いざという時の援助などを相談しておきましょう。
※避難が困難な方については、下記の「災害時要配慮者制度」の活用もご検討ください。(下記詳細)

高齢者や障がいのある方を災害から守りましょう

災害時要配慮者避難支援制度

篠栗町では、災害時に自身で避難することが困難な方の避難誘導や、避難生活での支援体制を整えるため、基本的な考え方や進め方などをまとめた「災害時要配慮者避難支援プラン全体計画」を平成23年7月に策定しました。平成25年6月、災害対策基本法の一部改正により、高齢者・障がい者・乳幼児などを特に「要配慮者」と定められたことを考慮して、この制度の呼称を「災害時要配慮者避難支援制度」と決めました。

災害時要配慮者避難支援制度の仕組み

一人暮らしの高齢者や障がい者、難病患者など、災害時の一連の行動をとるのに支援を必要とする人に対して、近所の人をはじめ、地域の皆さんで支援する仕組みです。登録された要配慮者の情報を、支援組織(自主防災組織、民生委員、福祉協力員など)で共有し、災害時の避難情報の伝達や避難誘導、安否確認に役立てます。



●登録の希望・問い合わせ: 篠栗町役場福祉課 092-947-1347

●ホームページ: <https://www.town.sasaguri.fukuoka.jp/kurashi/bosai/2139.html>

【災害に備える】

状況に応じた備えを考えよう

災害時に必要なものは、家族構成や被災の状況で必要な備えが3段階に分かれます。
家族構成などの状況に応じた、備えや備蓄などを考えましょう



常時携行品	非常持出品	家庭内での備蓄品
外出先で被災した場合に役立つ防災グッズ	避難の際に緊急的に自宅から持ち出す物(1日～3日分)	被災後の数日を持ち切るための食料など(3日～2週間分)
いつも持ち歩くバッグなどに入れ、常に持ち歩く	リュックサックなどに入れ、玄関など持ち出しやすい場所におく	運びやすい収納ケースなどに入れ、台所や押し入れに入れておく
地図、笛、携帯食料、水など	下記参照	避難生活用の食料、水、燃料など

非常時持出品

●非常時一次持ち出し品 (例)

短期用

- 飲料水
- 食料(飴、チョコレートなど)
- 予備のメガネ・コンタクトレンズ
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 靴
- マスク・体温計
- 筆記用具・ノート
- 下着・くつした
- 生理用品
- 雨具
- 貴重品(現金、保険証など)
- ティッシュペーパー・トイレットペーパー
- 医薬品・常備薬
- 防災頭巾・ヘルメット
- リュックサック

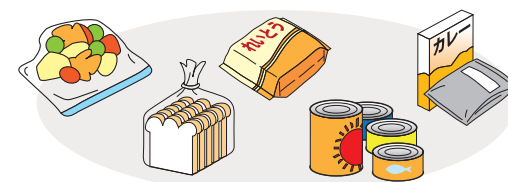
●非常時二次持ち出し品 (例)

長期用

- 予備の乾電池
- ナイフ・かんきり
- 非常食
- マッチ・ライター
- ビニール袋
- スプーン・はし・カップ

家庭内での備蓄品

ローリングストック法を使って備蓄をしましょう。始めの3日間は冷蔵庫内のものを使い、その後は備蓄しておいた食料を使います。



食べながら備える ローリングストック法とは

ローリングストック法は、保存食を日常的に消費し、食べた分だけ買い足していく備蓄方法です。
日頃から食べ慣れている賞味期限が1年程度のを意識的にストックして、月に1、2度食べるときに防災について考えるきっかけにしましょう。

①最初に1食分多めに購入する。

②消費期限の短いものから順番に使う。

③消費した分を補充する。

※消費期限内に使い切る量が目安

②と③を定期的に繰り返して備蓄を一定に保つ

■家族の構成を考えて、非常時持出品、備蓄品を準備しましょう

乳幼児のいる家庭

ミルク、哺乳びん、離乳食、おむつ、洗浄器、バスタオル、ガーゼ、母子手帳、おもちゃなど



高齢者がいる家庭

常備薬、介護用品、入れ歯、補聴器、大人用紙おむつなど



【防災マップ編】防災マップの見方



防災関連施設

- ◎ 町役場
- ⊗ 警察
- 病院
- H 消火栓
- 自然水利等

基本情報

- +— 鉄道
- 000 国道
- 000 主要地方道・県道
- ! アンダーパス*
- 水域
- 町境

土砂災害警戒区域等

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ) 警戒区域 特別警戒区域

土石流 警戒区域 特別警戒区域

地すべり 警戒区域

河川氾濫浸水深(想定最大規模)

5.0m	5.0～10.0m
3.0m	3.0～5.0m
2.0m	2.0～3.0m
1.0m	1.0～2.0m
0.5m	0.5～1.0m
0.5m	～0.5m

家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)

洪水の際に河岸が削られて家屋が倒壊するおそれのある区域

*アンダーパス:鉄道や道路との交差点を立体交差するため、道路を掘り下げ、くぐり抜ける方式とした道路で、防災マップでは大雨などで冠水しやすい場所を示しています。

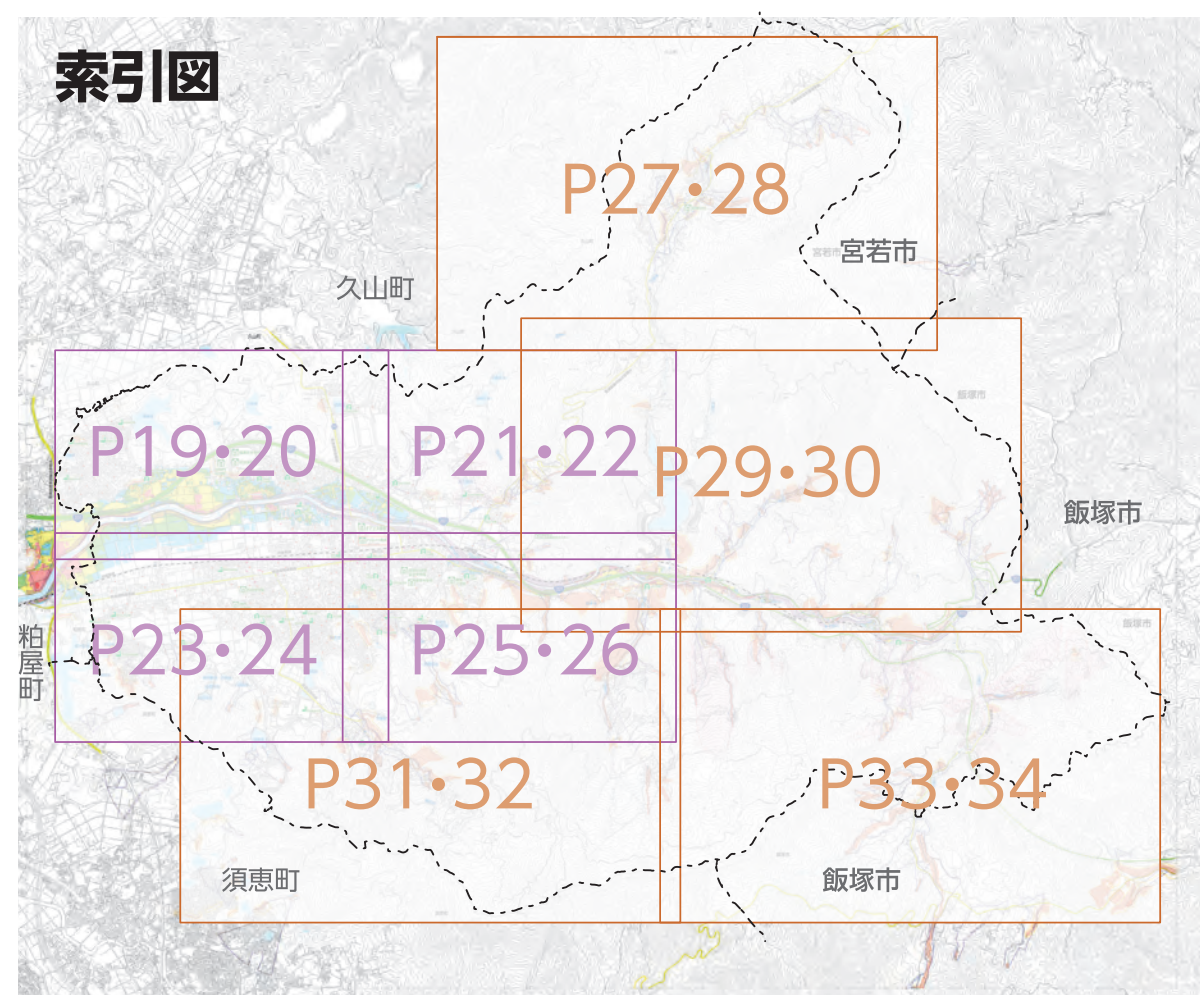
多々良川の浸水想定区域【河川氾濫浸水深(想定最大規模)】について

この図は、水防法の規定により指定された『想定し得る最大規模の降雨(1年間の発生確率が1/1,000程度の降雨)』によって洪水浸水想定区域で浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。

- ・この洪水浸水想定区域等は、平成30年4月の多々良川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、予測されたものです。
- ・予測にあたっては、支川の氾濫、予測の前提を超える規模の降雨による氾濫や内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生したり、想定される浸水深と異なったりする場合があります。

- 算出の前提となる降雨『想定し得る最大規模の降雨』:流域全体に667mm/9時間の降雨
- 作成:福岡県(平成30年4月27日公表)

測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 984



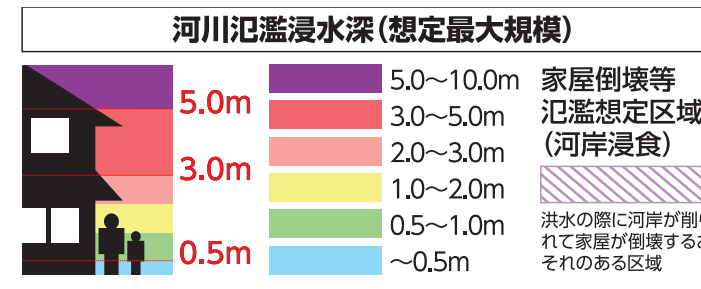


0 100 200 (m)

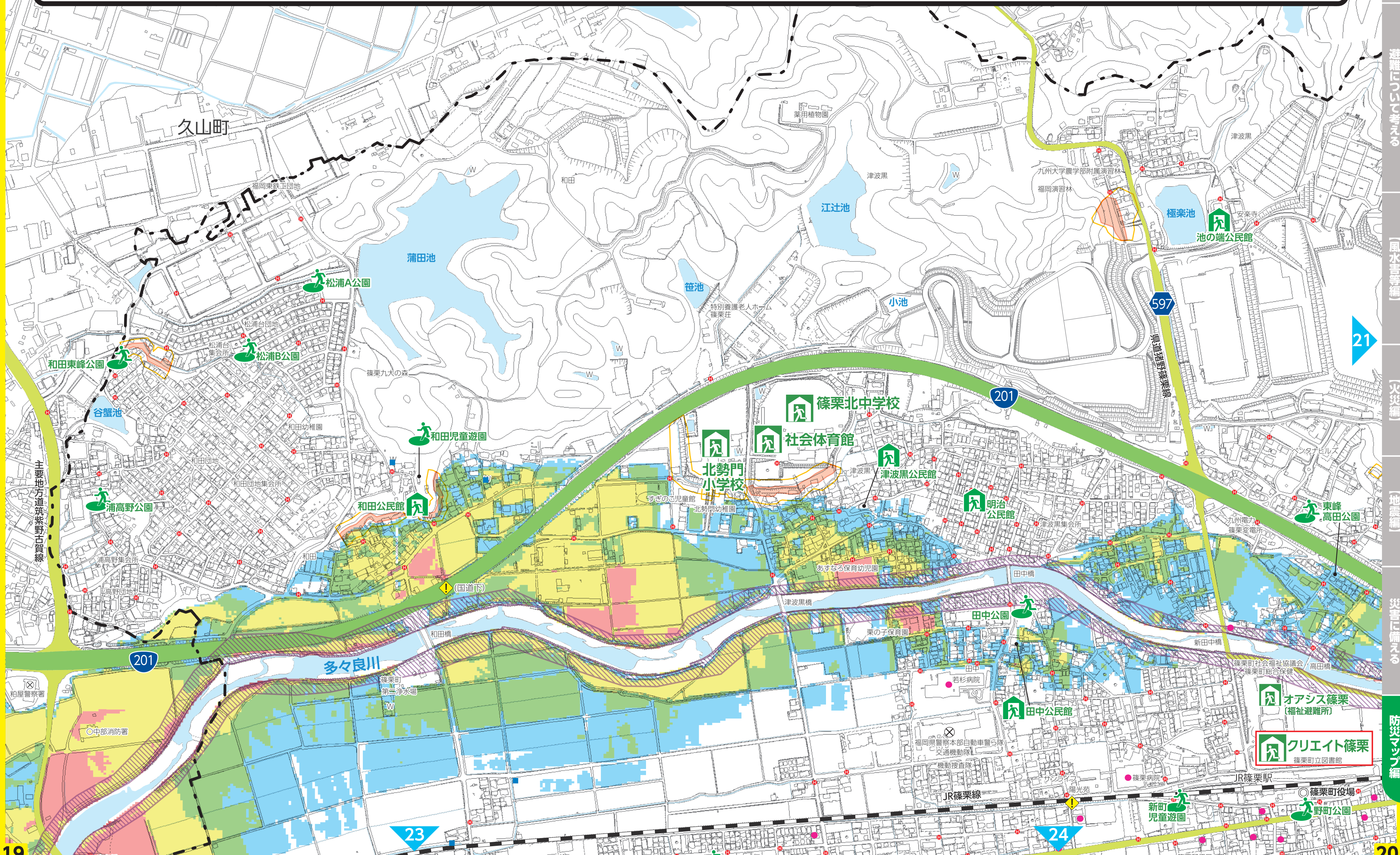
避難施設	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	避難地

防災関連施設	
	町役場
	警察
	病院
	消火栓
	自然水利等

基本情報	
	鉄道
	国道
	主要地方道・県道
	アンダーパス
	水域
	町境



土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	土砂災害特別警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(地すべり)



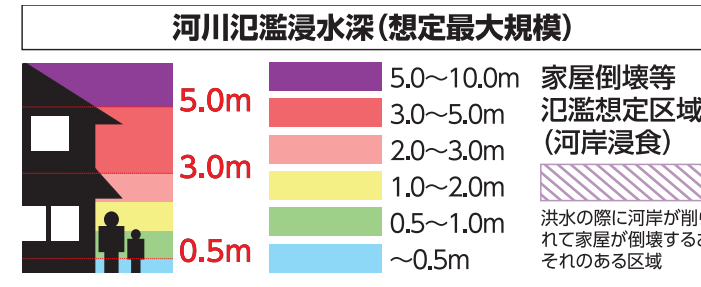


0 100 200 (m)

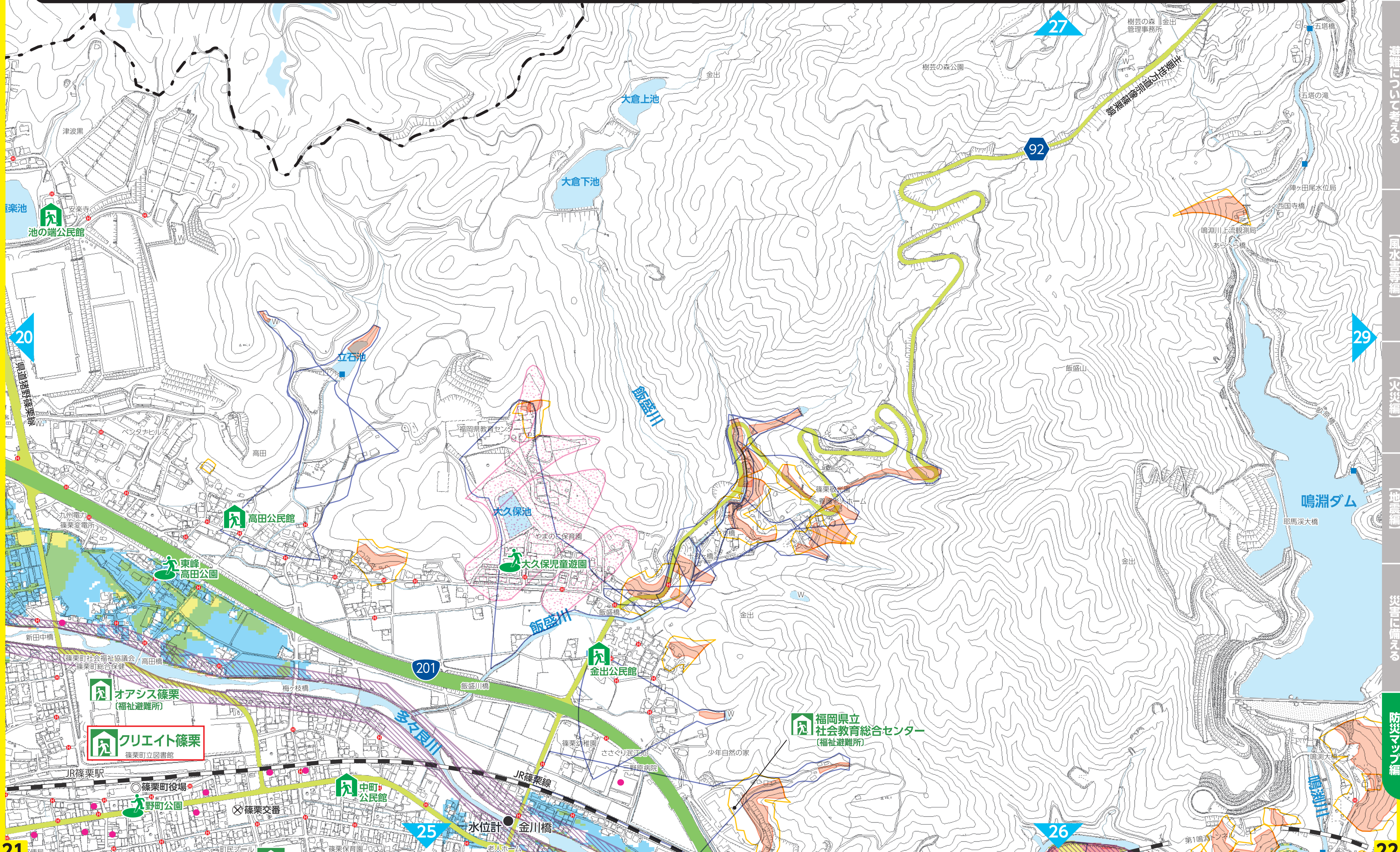
避難施設	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	避難地

防災関連施設	
	町役場
	警察
	病院
	消火栓
	自然水利等

基本情報	
	鉄道
	国道
	主要地方道・県道
	アンダーパス
	水域
	町境



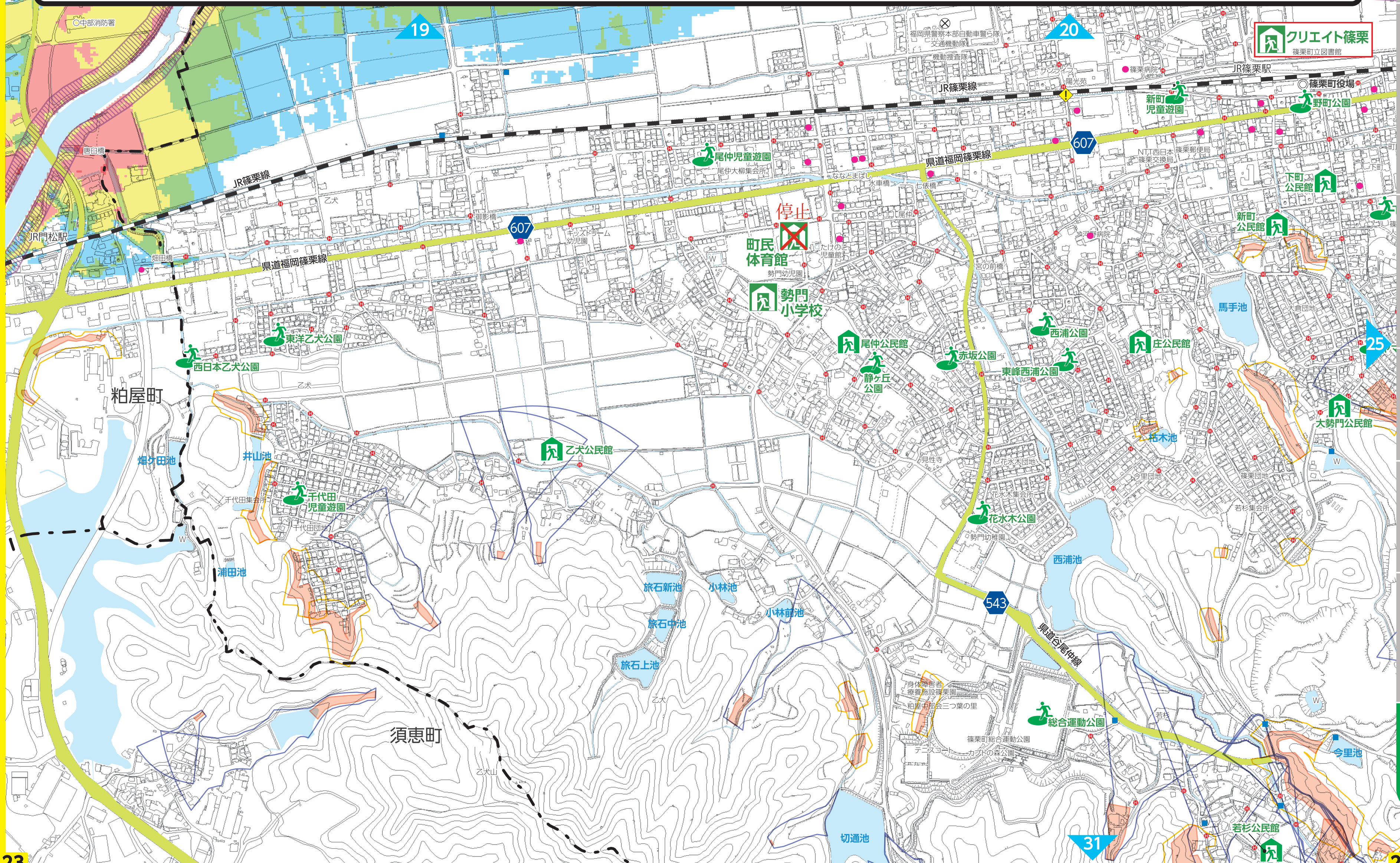
土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	土砂災害特別警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(地すべり)





基本情報			
	鉄道	----	町境
	国道		
	主要地方道・県道		
	アンダーパス		
	水域		

土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	土砂災害特別警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(地すべり)





0 100 200 (m)

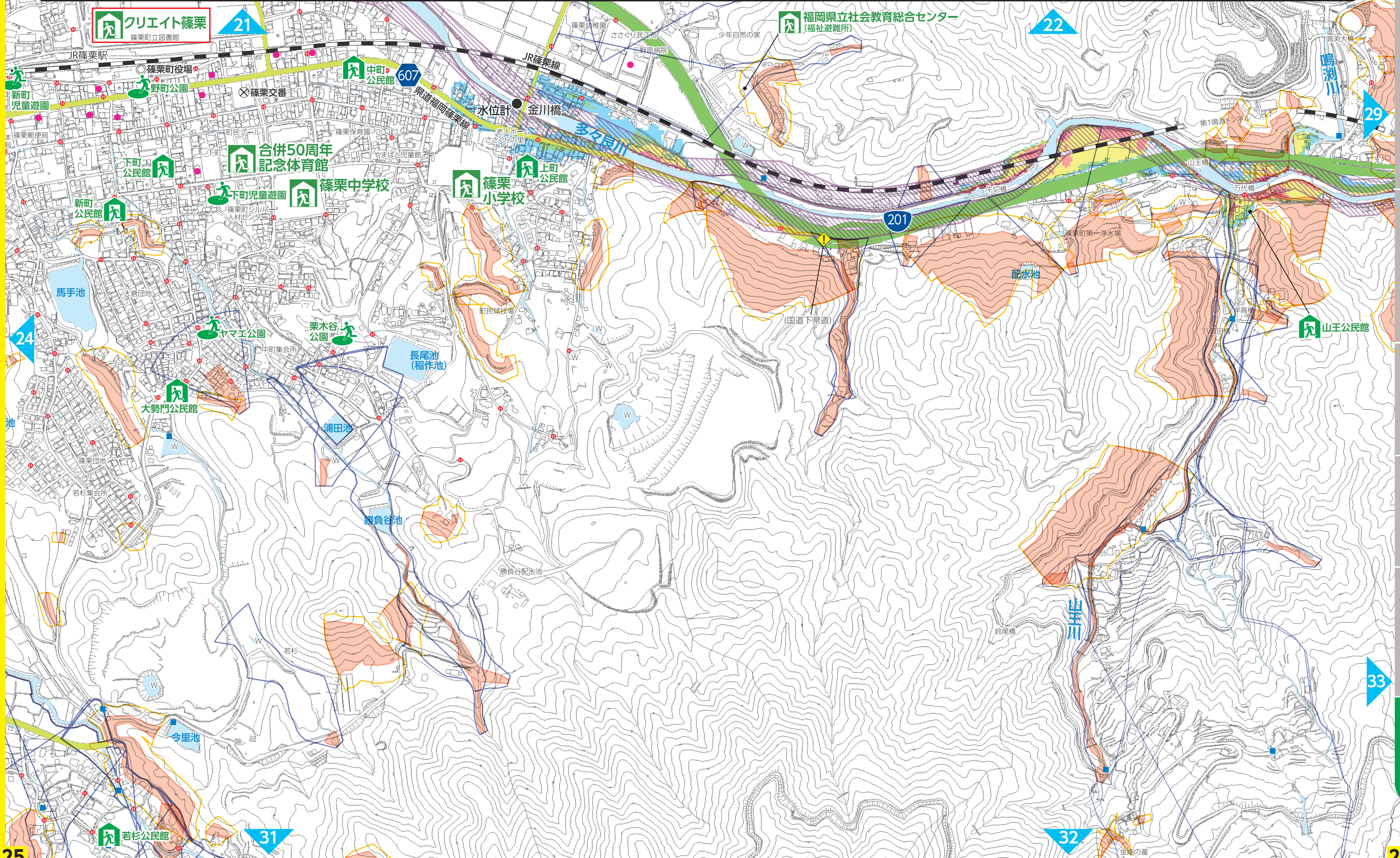
避難施設	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	避難地

防災関連施設	
	町役場
	警察
	病院
	消火栓
	自然水利等

基本情報	
	鉄道
	国道
	主要地方道・県道
	アンダーパス
	水域
	町境

河川氾濫浸水深(想定最大規模)	
	5.0m
	3.0m
	0.5m
	5.0~10.0m
	3.0~5.0m
	2.0~3.0m
	1.0~2.0m
	0.5~1.0m
	~0.5m

土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	土砂災害特別警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(地すべり)



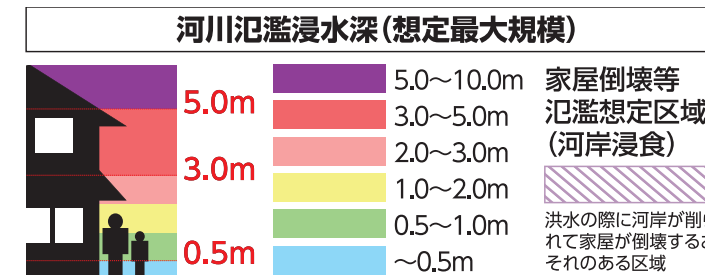


0 100 200 300 (m)

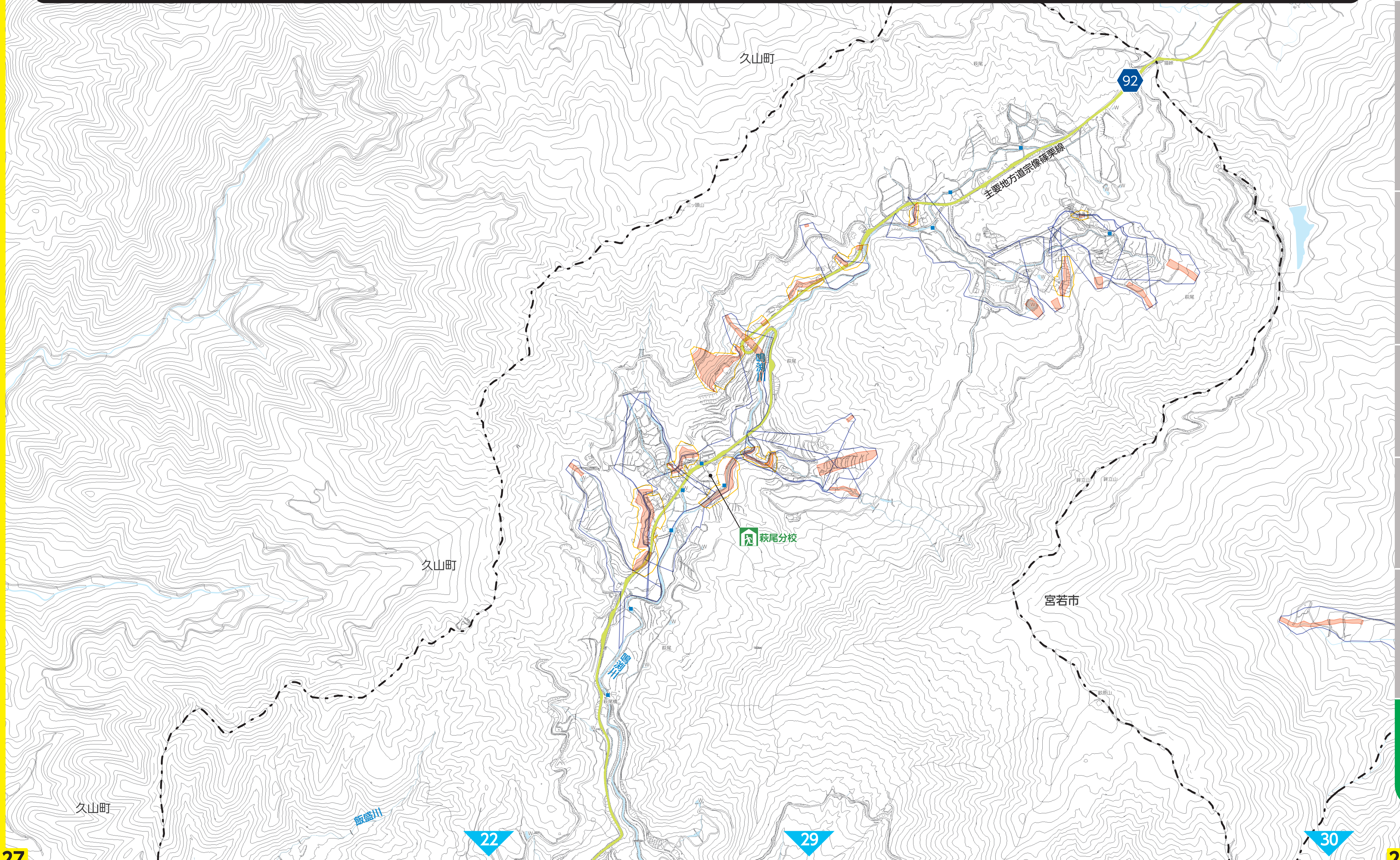
避難施設	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	避難地

防災関連施設	
	町役場
	警察
	病院
	消火栓
	自然水利等

基本情報			
	鉄道		町境
	国道		
	主要地方道・県道		
	アンダーパス		
	水域		



土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	土砂災害特別警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(地すべり)





0 100 200 300 (m)

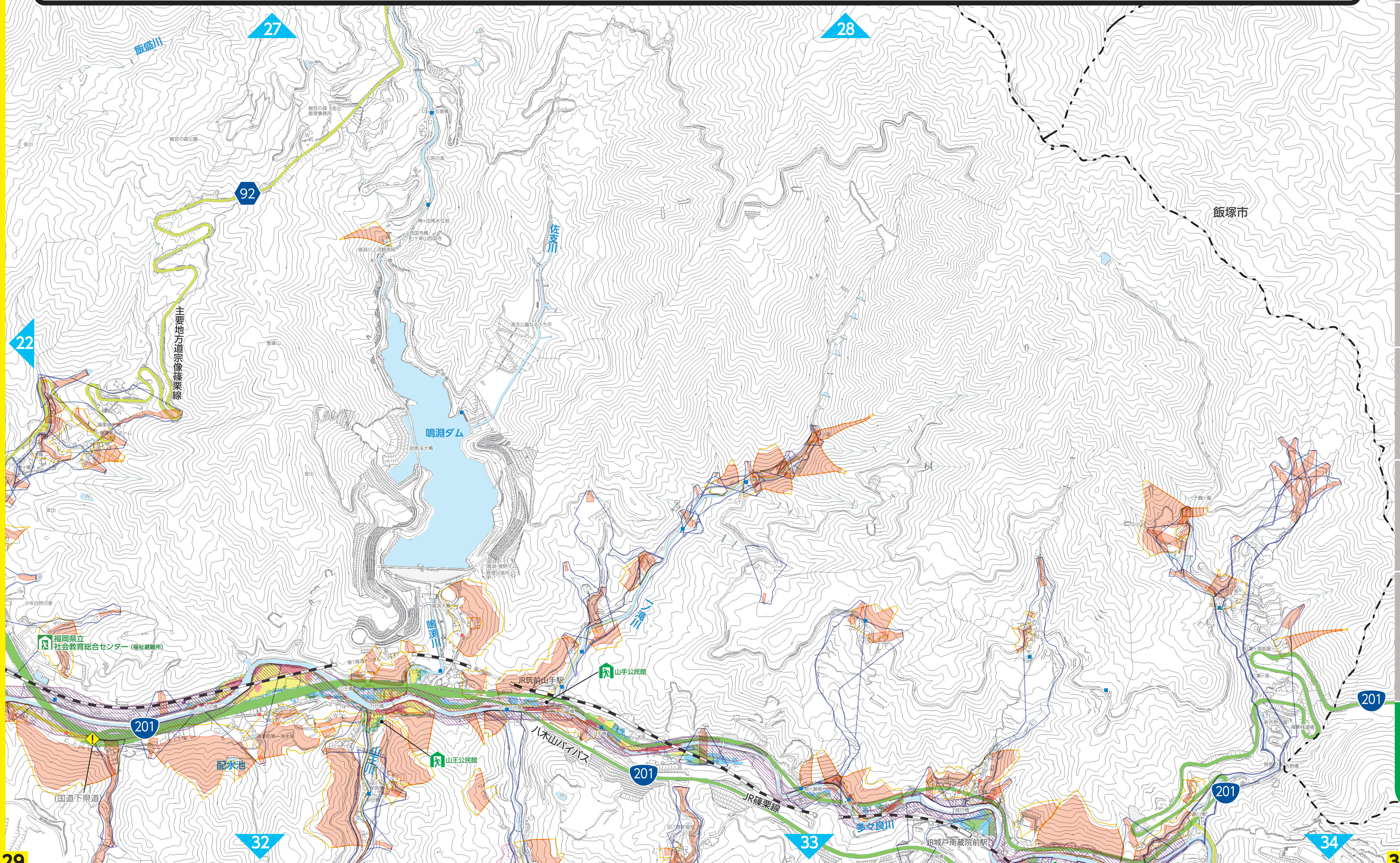
避難施設	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	避難地

防災関連施設	
	町役場
	警察
	病院
	消火栓
	自然水利等

基本情報			
	鉄道		町境
	国道		
	主要地方道・県道		
	アンダーパス		
	水域		

河川氾濫浸水深(想定最大規模)		
	5.0m	5.0~10.0m 家屋倒壊等 氾濫想定区域 (河岸浸食)
	3.0m	3.0~5.0m
	0.5m	2.0~3.0m
		1.0~2.0m
		0.5~1.0m
		~0.5m

土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	土砂災害特別警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(地すべり)



はじめに

避難について考える

【風水害等編】

【火災編】

【地震編】

災害に備える

防災マップ編

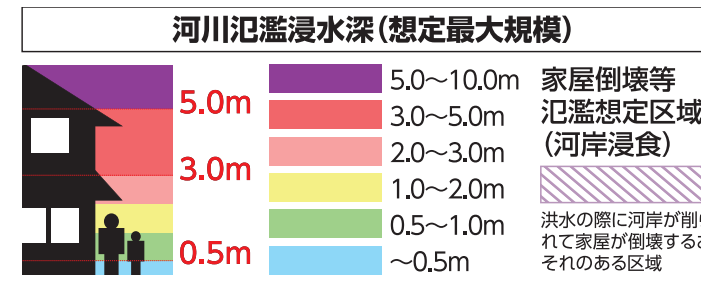


0 100 200 300 (m)

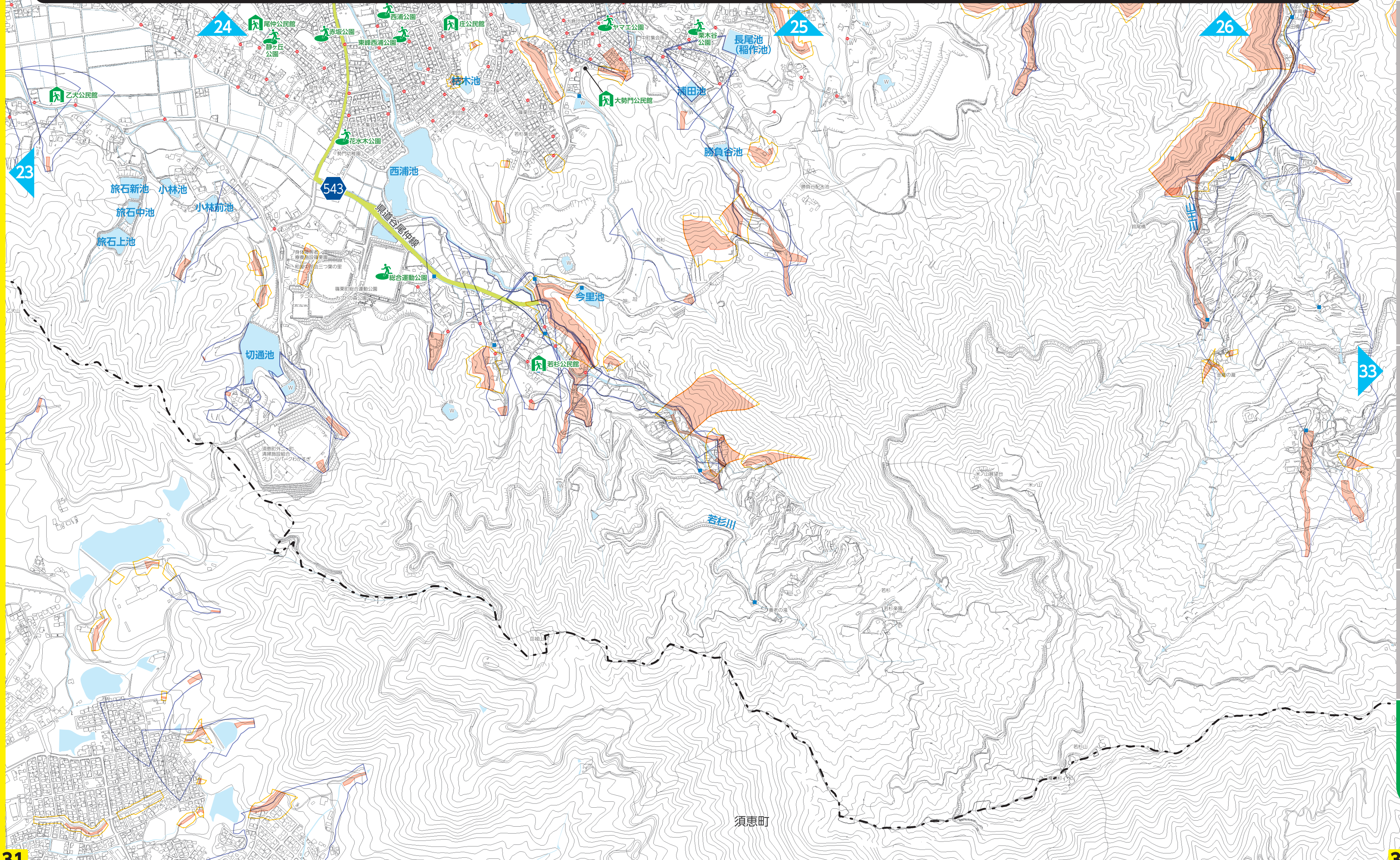
避難施設	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	避難地

防災関連施設	
	町役場
	警察
	病院
	消火栓
	自然水利等

基本情報	
	鉄道
	国道
	主要地方道・県道
	アンダーパス
	水域
	町境



土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	土砂災害特別警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(地すべり)



はじめに

避難について考える

【風水害等編】

【火災編】

【地震編】

災害に備える

防災マップ編



0 100 200 300 (m)

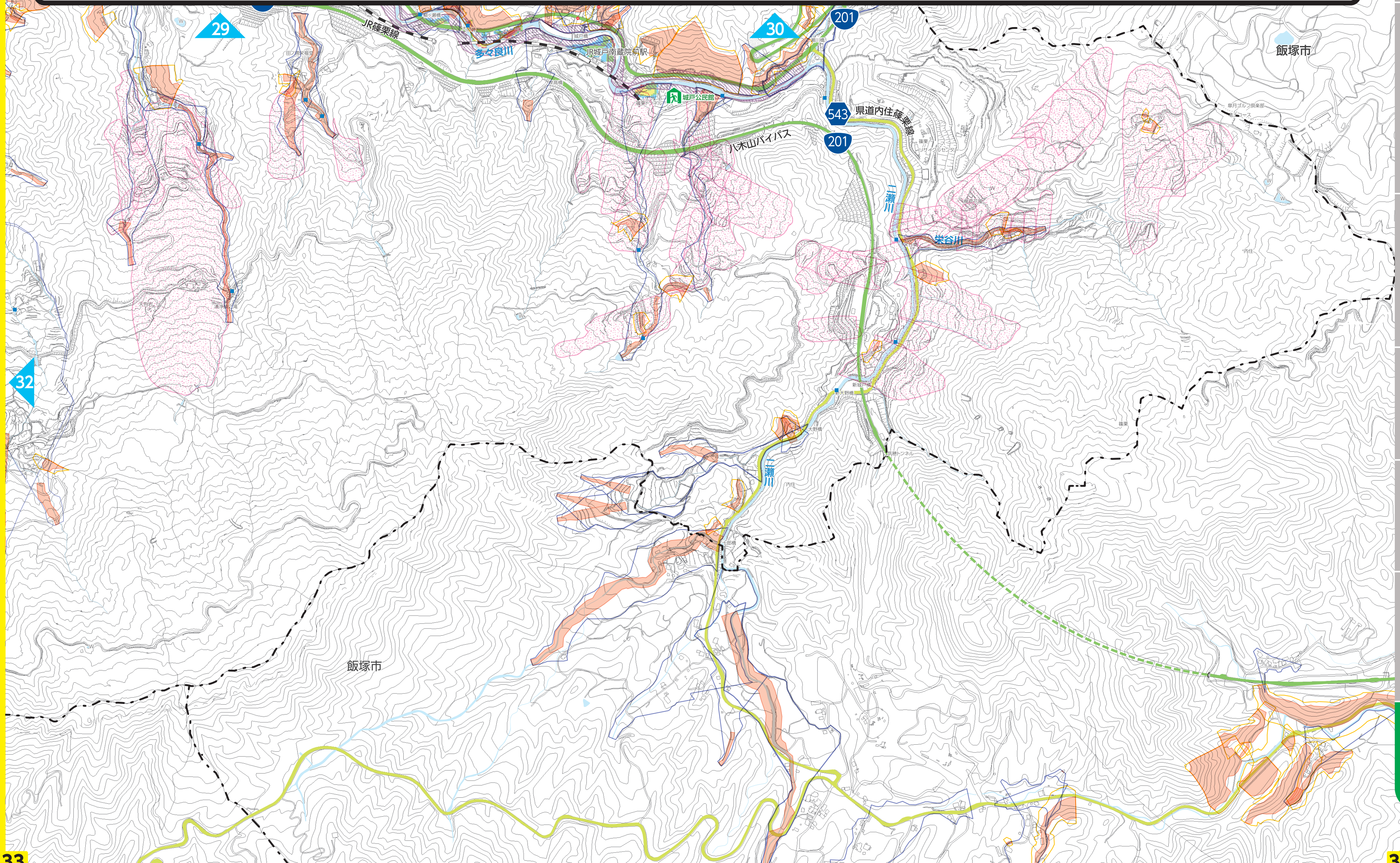
避難施設	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	避難地

防災関連施設	
	町役場
	警察
	病院
	消火栓
	自然水利等

基本情報	
	鉄道
	国道
	主要地方道・県道
	アンダーパス
	水域
	町境

河川氾濫浸水深(想定最大規模)	
	5.0m
	3.0~5.0m
	2.0~3.0m
	1.0~2.0m
	0.5~1.0m
	~0.5m

土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	土砂災害特別警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害警戒区域(がけ崩れ)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(地すべり)



はじめに

避難について考える

【風水害等編】

【火災編】

【地震編】

災害に備える

防災マップ編